

誰もが働きやすい職場へ

「女性が働きやすい」職場とは「職員誰もが働きやすい」職場
職場の働き方に関する課題は、性別や年代を超えてみんなで考える時代へ



INTERVIEW 01
豊住 真帆
(平成31年入局)



「同じ目的を持つ仲間と一緒に」

消防士になる前は、体力的にも技術的にも周りの男性職員についていけないのか不安を感じていました。実際、現場に配属されると職場の先輩と一緒に訓練や体力錬成を行ってくれたので、少しずつですが自分に自信を持てるようになりました。同じ目的を持つ仲間とともに、お互いを高めあうことができる職場です。

職場環境の改善に向けた会議や研修の実施

男性職員も女性職員と同じ研修を受講することで、女性職員の安心につながります。川崎市では、様々な研修や講習を通じて職場環境の改善に努めています。



ユニ・チャーム（株）様を招いて「女性職員が抱える悩みについて」研修を受講しています。



その他にも様々な研修や講習が行われています。

出産・子育てに関する休暇など

- ・妊娠障害（つわり）休務
- ・妊婦の通勤緩和
- ・職員の出産（特別休暇）
- ・配偶者の出産（特別休暇）
- ・職員の育児休暇（特別休暇）
- ・職員の育児参加（特別休暇）
- ・子の看護休暇（特別休暇）
- ・介護休暇（特別休暇）
- など



INTERVIEW 02
五ノ井 克明
(平成16年入局)



「働きたいと思える職場、仲間のために」

「消防」というと、災害現場で活躍する姿を想像すると思いますが、職員の衛生管理や健康管理、職場環境の改善を図ることが私の仕事です。また、各種ワクチン接種に関する業務にも従事しています。仲間が安心して働ける職場を作るために、様々な意見を取り入れながら日々奮闘しています。



INTERVIEW 03
寺澤 恵
(平成29年入局)



「女性の私だからこそ、できることもある」

救急出場が多く忙しい毎日ですが、その分やりがいも大きい仕事です。搬送した方の容体が改善し、医療機関を退院したと聞いた時は、何ものにも代え難い喜びを感じます。一般的に、救急隊員は男性のイメージが強いかもしれませんが、「女性がいて安心しました。」とよく声をかけていただく事があります。女性の私だからこそできる仕事があると実感しています。

check!

昭和44年、日本初の女性消防吏員が川崎に誕生



女性消防吏員誕生50周年記念式典
(平成31年2月実施)